

Q HTLV-1, ATL, HAM 等に関する相談はどこにすればいいですか？

A 県内の保健所や市町村等で相談を受け付けています。専門の医療機関については、県のホームページをご覧ください。
ホーム>健康・福祉>医療>感染症>HTLV-1関連情報>HTLV-1感染予防対策について



保健所	電話番号	所在地
鹿児島市	☎ 099-224-1111	鹿児島市山下町11番1号
指宿	☎ 0993-23-3854	指宿市十二町301
加世田	☎ 0993-53-2315	南さつま市加世田村原2丁目1-1
伊集院	☎ 099-273-2332	日置市伊集院町下谷口1960-1
川薩	☎ 0996-23-3165	薩摩川内市隈之城町228-1
出水	☎ 0996-62-1636	出水市昭和町18-18
大口	☎ 0995-23-5103	伊佐市大口里53-1
始良	☎ 0995-44-7956	霧島市隼人町松永3320-16
志布志	☎ 099-472-1021	志布志市志布志町志布志2丁目1-11
鹿屋	☎ 0994-52-2106	鹿屋市打馬2丁目16-6
西之表	☎ 0997-22-0018	西之表市西之表7590
屋久島	☎ 0997-46-2024	熊毛郡屋久島町安房650
名瀬	☎ 0997-52-5411	奄美市名瀬永田町17-3
徳之島	☎ 0997-82-0149	大島郡徳之島町亀津4943-2

関係機関等	電話番号	所在地
県感染症対策課 (感染症保健予防係)	☎ 099-286-2724	鹿児島市鴨池新町 10-1
県子育て支援課 (母子保健係)	☎ 099-286-2775	鹿児島市鴨池新町 10-1
県難病相談・ 支援センター	☎ 099-218-3133	鹿児島市小野 1 丁目 1-1 (ハートピアかごしま 3 階)
県助産師会 (子育て・女性健康センター)	☎ 099-210-7559	鹿児島市伊敷 6 丁目 17-18
NPO 法人 スマイルリボン	☎ 099-800-3112	(患者団体) ※当団体にあるキャリアママの会「カランコエ」では、授乳に関する悩み相談や情報交換などの交流を行っております。 なお、お問い合わせについては、スマイルリボンで受け付けています。 ※HP: https://www.smileribbon.or.jp/

受け継ぐ命を守るために



「HTLV-1」というウイルスをご存知ですか

鹿児島県にも多くの感染者(キャリア)がいると言われています。このウイルスは母乳を介してお母さんから赤ちゃんへ感染することがあります。このリーフレットは、HTLV-1 について、Q&A 方式でわかりやすく説明しています。

鹿児島県

Q HTLV-1とは?

A HTLV-1(ヒトT細胞白血病ウイルス1型)とは、ヒトに感染するウイルスの一種で、ATL(成人T細胞白血病)やHAM(HTLV-1関連脊髄症)等の原因となるウイルスです。

Q 感染すると必ず病気になるのですか?

A ウイルスが体の中に入っても、発病する人はほんの一部です。ATLの場合、感染からおおむね40年以上を過ぎた方から年間およそ1,000人に1人の割合で発症しているといわれています。

Q 日常生活で感染することがあるのですか?

A HTLV-1はリンパ球の中にひそんでおり、その感染力は極めて弱いため、身近にHTLV-1キャリアまたはATLやHAMなどのHTLV-1関連疾患の患者さんがいても日常生活の中ではまず感染しません。

Q どのようにして感染するのですか?

A HTLV-1の感染経路は、ウイルスを持った母から子への母子感染、輸血による感染、性行為による感染などがあります。なお、現在は献血時の血液検査により、輸血による感染はなくなりました。

Q パートナー間で感染するのですか?

A 日本全国で1年間に約4,000人の新たな感染が生じているといわれ、女性から男性への感染より、男性から女性への感染の方が3倍くらい多いと推測されています。しかし、ウイルスが入ったからといって必ずしも発病するものではありませんし、すぐに健康上の問題が起こるわけではありません。

Q 性行為による感染を防ぐためにはどのような方法がありますか?

A HTLV-1の感染力はあまり強くありませんので、反復した性行為における感染がほとんどであり、コンドームを使うことで予防できる可能性があります。

Q 母から子への感染はどのようにして起こるのですか?

A HTLV-1の母子感染のほとんどが母乳による感染(経母乳感染)です。その他に、胎児が体内にいるときの感染(経胎盤感染)、出産時の感染(経産道感染)等が考えられています。

Q どうして母乳から感染するのですか?

A 授乳によって、母乳中の感染リンパ球が赤ちゃんの体内に入り感染すると考えられています。

Q 母から子への感染を防ぐためにはどのような方法がありますか?

A 完全人工栄養(育児用ミルク)が最も確実でエビデンスが確立した方法とされていますが、母乳以外の経路で約3~6%母子感染が起こるといわれています。

最近の研究では、「完全人工栄養」と「90日未満の短期間の母乳栄養」との間に明らかな母子感染率の差がないことが示されました。そのため、どの栄養方法で赤ちゃんを育てるかは、パートナーやご家族、医療機関などによく相談し、ご自身が納得する方法を選んでください。

なお、本県では、HTLV-1又はHIVの確認検査において陽性又は判定保留と判断されたお母さんから生まれた乳児の粉ミルク代の一部を助成する事業を実施しておりますので、申請を希望される方は県庁感染症対策課または県保健所(鹿児島市保健所を除く)にご相談ください。

粉ミルク助成について(県HP)



Q 赤ちゃんに感染したかどうかはどうやってわかりますか?

A 3歳以降の抗体検査で感染の有無を確認できます。このときに検査が陰性ならば母子感染しなかったと考えられます。検査をご希望される場合は、検査の実施時期等も含め、かかりつけ小児科医にご相談ください。

育児が始まると感染への不安が大きくなることもあります。健やかな親子関係が形成できるように、出産された産科医療機関、地域の保健師、助産師、ご家族やパートナーに助けをもらうことが大切です。

本県ではHTLV-1抗体が陽性だったお母さんの希望があれば、産科医療機関からの情報提供をうけて保健師等による支援をしています。

一人で悩まずにお気軽にご相談ください。